

部局名

地域資源創成学部

担当: ( 教授:熊野稔 )



テーマ

南海トラフ大地震時の津波被害県における「道の駅」の災害支援に関する調査研究

## 特色ある取組

道の駅は、これまで中越地震、東日本大震災及び熊本地震等において災害支援に貢献してきた経緯がある。国土交通省は道の駅の災害支援、防災拠点化の必要性を認知し、2020年度から「防災道の駅」認定制度の導入や広域的な防災拠点となる道の駅の選定を始めた。しかし、南海トラフ大地震等の大規模災害への事前準備となる具体的な道の駅の災害支援政策はいまだ成されておらず、不十分なままである。そのため、南海トラフ大地震時に被害が想定される地域において、現存の道の駅が災害時に支援が可能か不可能かを明らかにし、災害時に支援可能な道の駅に必要な施策や条件、留意点を明らかにするため調査研究を行った。本テーマは熊野ゼミの学生も地域創造実践の授業で取り組み、教育実践にも活用できた。

- 【新技術振興渡辺記念会の助成研究調査内容】 令和3年度(下期)科学技術調査研究助成 2021年10月～2022年9月  
「南海トラフ大地震時における道の駅の災害支援と防災技術に関する調査研究」

南海トラフ大地震時の被災想定地域(宮崎、高知、徳島、和歌山、三重、愛知、静岡)の各道の駅について、ハザードマップ等からの条件調査と各県を窓口にしたアンケート・聞き取り調査等によって、災害時に防災拠点として対応可能であるかの評価を行った。これにより、災害時に防災拠点または避難所として機能が可能な道の駅と、災害時に被害を受け避難が必要となる可能性が高い道の駅を明らかにし、各道の駅への防災計画提言を行った。これらの結果と、災害時における道の駅活用のための防災技術の報告書を取りまとめた。

各県における災害時に支援可能な道の駅の数  
(道の駅の総数は調査時点のもの(2018～2022))

	防災道の駅	災害時支援可能	やや支援可能	支援はやや難しい	支援は難しい(避難が必要となる可能性有)	総数
宮崎	1	4	4	8	0	17
高知	1	1	3	7	12	24
徳島	1	1	5	5	5	17
和歌山	1	1	4	16	13	35
三重	1	0	6	6	5	18
愛知	1	1	6	5	5	18
静岡	1	0	6	15	3	25

